

立教大学 コミュニティ福祉学部

東日本大震災復興支援

2020
年度

プロジェクト



いわき・楢葉

全学部
参加OK



東日本大震災

復興支援プロジェクトとは

2011年4月13日、コミュニティ福祉学部は、東日本大震災復興支援プロジェクトを立ち上げました。学生と教員が一体となって、被災された方々を訪ね、被災地の復興を見守っていくという、細く長く寄り添う伴走型の交流支援活動を継続しています。

これまでの9年間に、最大7拠点（気仙沼・大島、陸前高田、石巻、南三陸、いわき・檜葉、新宿、東久留米）において、約300回、延べ3,650名の学生と教員・スタッフが活動に参加してきました。

本プロジェクトを支える事務局として、新座キャンパス内に設置されたのが、東日本大震災復興支援推進室（復興支援室）です。現在、いわき・檜葉拠点で実施している支援活動の企画運営のほか、ガイダンス、現地引率、派遣先との連絡調整、関連資料の収集、活動成果の継承・発信、大学教育や社会への還元などを行っています。

現在、参加者のおよそ4割がコミュニティ福祉学部以外の学生となっています。全学部生に門戸は開かれています。長期化する復興への歩みは道半ば。気さくなスタッフが、皆さんの参加をお待ちしています。

社会への還元

●東日本大震災5年誌を発行

2016年3月11日、復興のプロセスに伴走してきた本プロジェクトは、その軌跡をまとめた震災5年誌を出版しました。

参加学生や教職員スタッフによる体験レポートのほか、第一線で復興に取り組む現地のキーパーソン、避難住民の方々による復興の智恵なども紹介しています。



「復興支援ってなんだろう？
人とコミュニティによりそった5年間」
(本の泉社、定価1,500円+税)

いわき・櫛葉拠点担当者からのメッセージ

福島県は、地震・津波の被害も甚大でしたが、原発事故による被害も甚大でした。原発が立地していた双葉郡各町の方々は全く予期していなかった事態に陥り、何の準備もないまま各地への避難を余儀なくされることになりました。他の震災被災地が復旧から復興へと推移していく状況にあって、復旧さえままならない時間を何年も過ごすことになったのです。

櫛葉町は2015年9月に避難解除がなされました。4年半に渡る避難生活は復興の道程に様々な困難を残しました。2019年の住民の帰還率は52%です。被災時、65歳だった方は74歳に、75歳だった方は84歳に、1歳だった子どもは10歳になっています。極端な人口縮小社会、超高齢社会、超少子社会の現実がここには広がっています。

いわき市の薄磯地区は市内で最大の津波被害があった地域です。265世帯の家屋ほとんどが流出したのです。震災前は美しい砂浜に海水浴客やサーファーがたくさん訪れていたそうですが、景観は一変しました。残った住民の方々は地域の再編をめざして地道に取り組んでおられます。

このような地域を歩き、五感をもって被災がもたらすものを知るとともに、住民の方々のお手伝いなどを通じてそれぞれの地域の魅力を感じ、私たちにできることを一緒に考えましょう。

いわき・櫛葉交流プログラム（福島県）

いわき
(薄磯)

美しい海を前に 伝統の継承をお手伝い

地区で代々継承してきた大切な行事の運営が人手不足で難しくなっています。春の例大祭では炊き出しのお手伝いや神輿担ぎのお手伝いをします。神輿担ぎの手伝いに来ている他大学の学生と交流することもあります。夏のイベントの手伝い、冬のあんこうの吊し切り見学など、海を感じる活動です。



薄磯地区 例大祭



櫛葉町地域交流サロン

サロンを手伝う 復興の様子をみる

櫛葉

健康を大切にする高齢者の方々が参加するサロンで、昼食づくりを一緒にしたり、かるたや風船バレーなどレクリエーションで楽しんだりします。参加者の方々は大学生が来ることを楽しみにしてくださっています。町内にあるスポーツ施設や文化施設、産業施設などの見学、様々な立場の方の講話を聞くこともあります。

復興支援活動 参加の流れ

まずは
メールニュース
登録

登録方法は二通り

① QRコード

WEB から簡単に入力できます

② メール

件名を「メールニュース登録」として、以下の項目をメールしてください。

- ①氏名（ふりがな）②学部・学科・学年 ③学籍番号
④携帯電話番号 ⑤ rikkyo メールアドレス

fukkoushien@rikkyo.ac.jp



1

参加申し込み

最新の募集情報をメールニュースでチェックして、希望のプログラムがあれば申し込む。

2

ガイダンス

大学で開かれるガイダンスに出席。参加メンバーの顔合わせや活動内容の確認、事前準備等を行う。

3

現地活動

現地拠点「いわき・楡葉」へ赴き、実際に復興支援活動に取り組む。

4

振り返り

活動後、大学で振り返りミーティングに参加。活動の成果や改善点を共有し、次回参加者へ継承する。

5

活動の継続

支援活動を継続し深化させる。他のボランティア活動等に参加して幅広い視野の確保も。社会還元も行う。

交通費助成制度あり（以下を上限として実費を一律助成）

いわき・楡葉 **初参加者** 8,500円 **リピーター** 12,500円

※その他、宿泊費については一泊につき 6,000 円を上限として実費が支払われます



立教大学

コミュニティ福祉学部 東日本大震災復興支援推進室

新座キャンパス 6号館 3階 N631 号室

開室日：火・水・金（4～9月）／火・金（10～3月）

〒 352-8558 埼玉県新座市北野 1-2-26

TEL：048-471-6967 / E-mail：fukkoushien@rikkyo.ac.jp

<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/csc/>